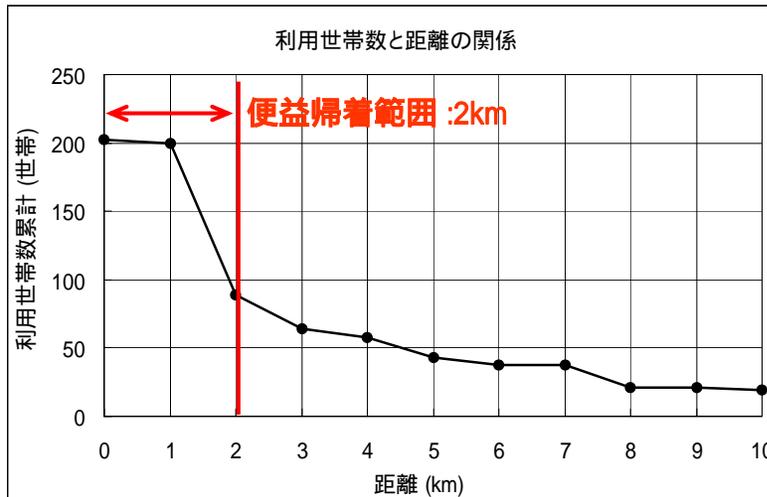
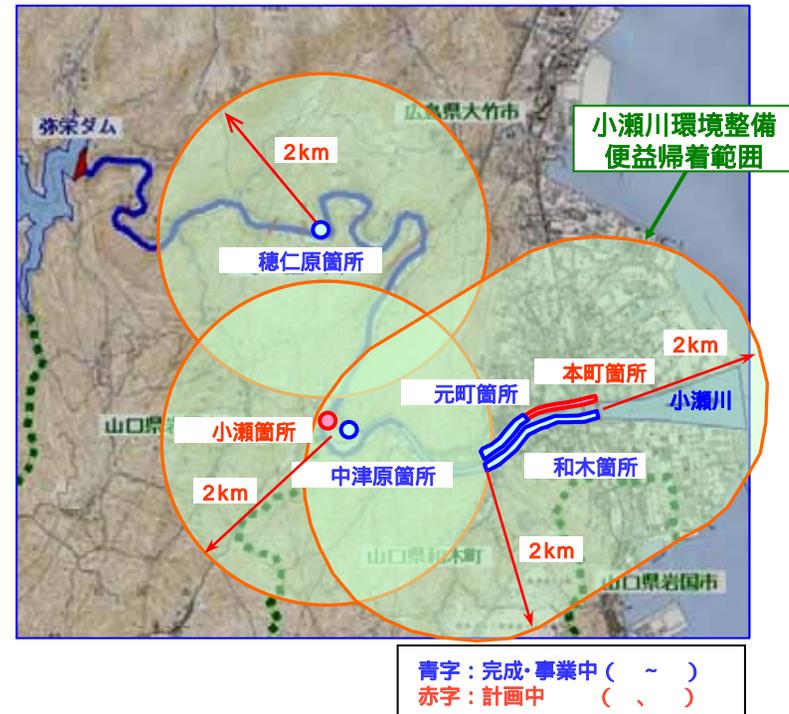


(2) 便益帰着範囲の設定

小瀬川の河川利用は、散策や水遊び等の沿川住民の利用が主で、徒歩や自転車による利用者が多いため、アンケート結果より、**便益の帰着範囲を沿川2kmに設定した。**



(注) アンケート回答世帯のうち、「1年に数回以上行く」と回答した世帯を利用世帯として集計した。



(3) 便益計測結果

年便益額 = 405円/月/世帯 × 10,436世帯 × 12ヵ月
51百万円

(4)費用対効果分析結果

評価期間を事業完成後50年間とし、現在価値化を行った。

総便益 約 1,270百万円

景観の向上、親水性の向上
安全な伝統行事やイベントの開催
スポーツなど健康づくりの場の創出

() 総便益は、50カ年の年便益総和に残存価値を加え算出した。

総費用 約 1,179百万円

総事業費、維持管理費

() 総費用は、総事業費に50カ年の維持管理を加え算出した。

() 維持管理費は、過年度実績を踏まえ設定した。

費用便益比

$$\text{総便益} / \text{総費用} = 1,270 \text{百万円} / 1,179 \text{百万円} \\ 1.08$$

9. 今後の予定

(総事業費 1,200百万円、既投資額 825百万円)



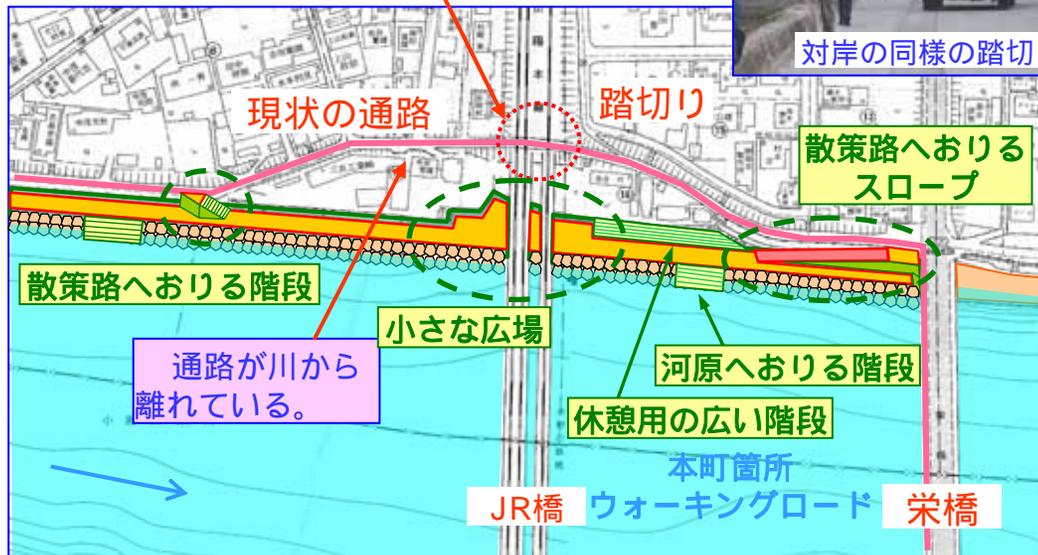
整備予定 ほんまち 本町箇所 (親水護岸)

事業費 : 275百万円

整備内容: 親水護岸 (L=1.0km)、坂路、階段等

- ・大和橋架け替えに合わせ整備した元町・和木箇所に引き続き、沿川住民との調整を図った後に本町箇所整備を行う。
- ・堤防上の道路が河川から離れ、さらに危険な踏切を渡らなければ小瀬川を周回できない現状を改善し、栄橋～中市堰間のウォーキングロードを完成させる計画である。

現状では、危険な踏切を渡らなければ小瀬川を周回できない。



親水性に乏しい現状の護岸



整備予定 ^{おせ}小瀬箇所 (親水護岸)

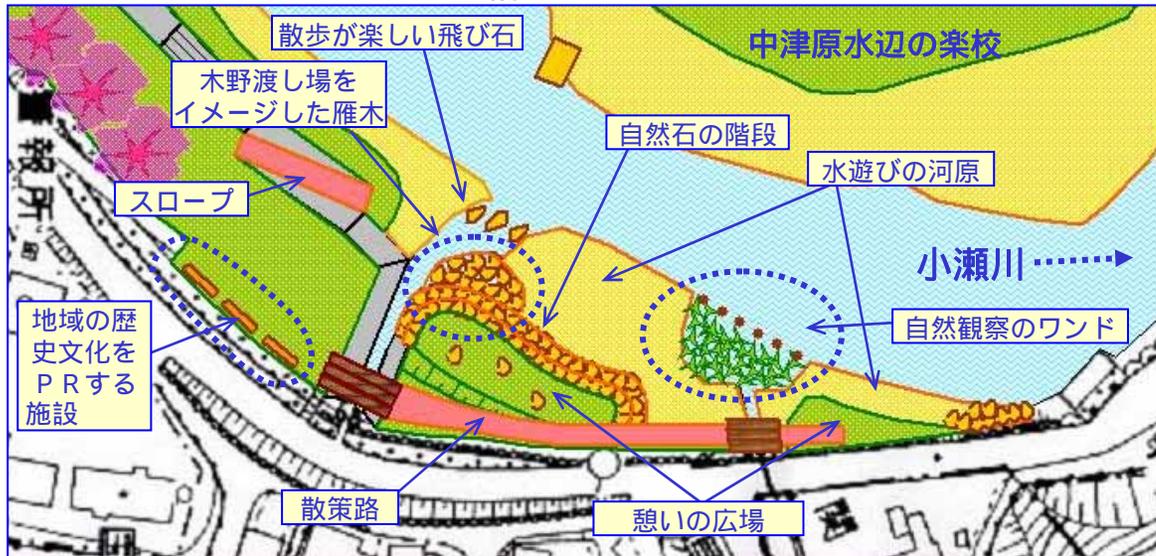
事業費 : 100百万円

整備内容 : 親水護岸(L=0.2km)、坂路、階段等

- ・右岸の県道整備の進捗に合わせ、大竹市の史跡「木野渡し場」や周辺の文化財を含め、親水性に富み、安全で歴史や環境学習にも活用できるよう整備を行う計画である。



整備イメージ



現況の河岸は春の花見で賑わう。



現況の小瀬箇所は、草木が繁茂し親水性に乏しい状況である。

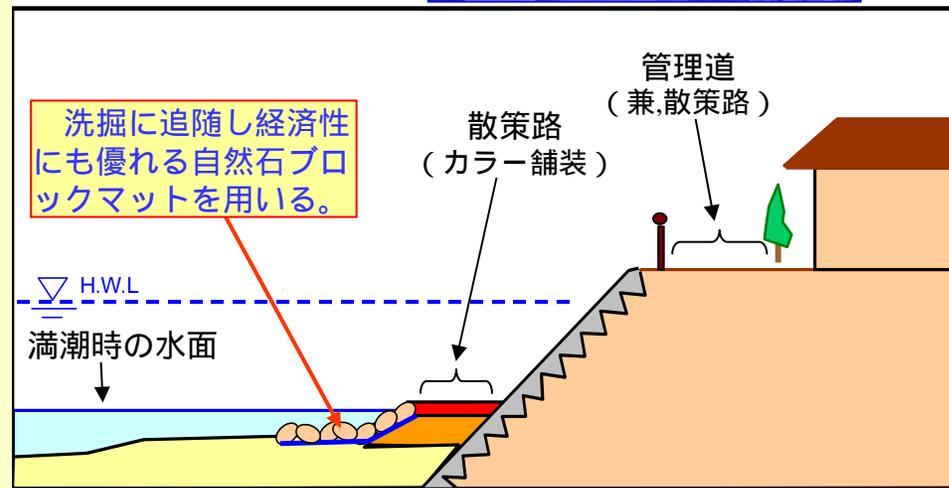
10. コスト縮減の取り組み

もとまち 元町箇所、 わき 和木箇所、 ほんまち 本町箇所（親水護岸）



自然石ブロックマット(和木)

- 通常の石張工ではなく、洗掘に追随し所要の強度(重量)を有する安価な自然石ブロックマットを用いる。これにより、護岸1m当り約3万円のコスト縮減になる。
- 整備済みの元町箇所全体で約19百万円、和木箇所全体で約51百万円のコスト縮減になった。（各工事費に対するコスト縮減率はそれぞれ約9%、23%である。）
- 今後整備予定の本町箇所全体で約32百万円のコスト縮減が見込まれる。（コスト縮減率は約14%である。）



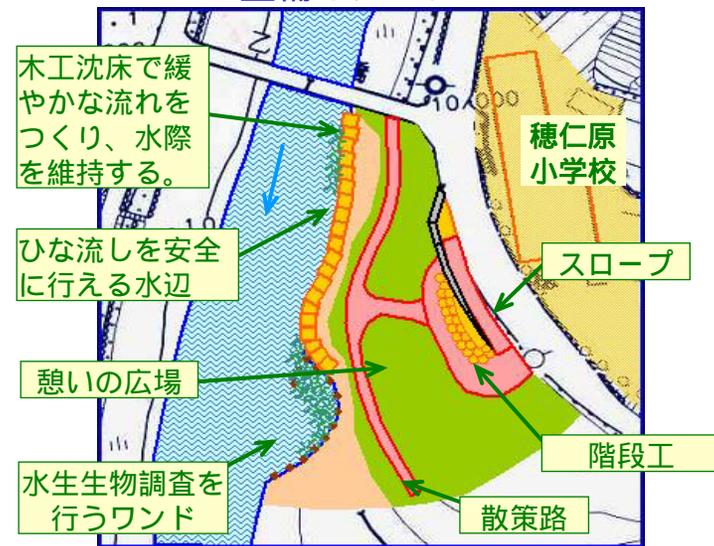
おにわら 穂仁原箇所（水辺の楽校）

- 現地採取した自然石や伐採した樹木をワンド等の水際部維持（木工沈床等）に利用する。
- 木工沈床1基当りの材料費約5万円、穂仁原箇所全体で約1百万円のコスト削減が見込まれる。（コスト縮減率は約1%である）



木工沈床の例

整備イメージ



1 1. 今後の対応方針（原案）

(1)事業の必要性に関する視点

小瀬川水系では、整備済みの環境整備箇所については多くの河川利用が図られている。今後も整備を推進することで水辺へのアクセスが向上するほか、地元要望を満たす総合学習や交流の場ができ、さらなる河川利用促進が見込まれる。

(2)事業進捗の見込みの視点

現計画の推進に関しては、地域住民や自治会、関係機関等からなる協議会を設置し、意見を踏まえつつ実施しており、川の通信簿の評価も高いことから良好な整備が行われていると考えている。

(3)対応方針（原案）

本事業は、**継続が妥当**と考えている。
今後も更に河川空間の利活用が促進されるために、地域等との連携をさらに深めつつ、引き続き事業を推進する。